

『日常の中の「異」に気づく：流動的でダイナミックな「違い」を可視化しよう！』

今回のサタラボでは、『異文化コミュニケーション・トレーニング：「異」と共に成長する』（三修社）の著者、東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科教授の山本志都さんにご登壇いただきます。前回のサタラボで皆さんにご協力いただいたアンケートをもとに、本書に収録された数多くのエクササイズの中から2つ選び、それらを通して、私たちの日常にある「異」に目を向けていきます。

従来の異文化理解では、「外国人」「若者」など、決まったカテゴリーで人を分けることが多く、ふだん、日々のやりとりの中で感じるちょっとした“ズレ”や“違和感”はあまり注目されてきませんでした。このワークショップでは、人と人の関わりの中で感じる小さな“違い”、それを「異」と呼び、身近なところにある多様性に目を向けましょう。

「外国人」という言葉もまた、私たちが引いている線のひとつにすぎません。私たち日本語教師には近い存在ですが、遠くてわかりあえない存在だと感じる人も、周囲を見渡すとまだまだ少なくありません。しかし、そんな周囲も、身近な「異」に気づき、コミュニケーションを取り、向き合えば、自然と関係改善に繋がるでしょう。

それにはまず、日本語教師の私たちがエクササイズを通して、しっかり『異』とは何かを知らなければなりません。1つ目のエクササイズでは、ふだん「当たり前」「普通のこと」と思っている見え方や感じ方が、実は環境や経験に左右されているということに気づき、そこから、自分の前提を見直し、見方を切り替える力を養いましょう。

2つ目のエクササイズでは、すれ違いの背景にある伝え方の違いに注目します。日本では「察してもらう」スタイル（高コンテクスト）、欧米では「言葉で伝える」スタイル（低コンテクスト）が自然とされやすく、この違いが誤解を生むことがあります。また、国籍や世代、「個人主義・集団主義」などの分類は、決めつけにつながることもあれば、状況を読み解く手がかりにもなります。このワークでは、ある視点を「設定」して観察することと、決まった見方を「解除」して連携を取り戻すことのどちらもが重要であることを学びます。

周囲を、職場を、地域を多文化共生社会に変えるために、日本語教師の私たちが体験し、しっかりポイントをおさえる機会になれば嬉しいです。隣の外国人だけではなく、だれもが住みやすい日本にできるはずです！

【講師・山本志都さんからのことば】

「なんとなく噛み合わない」と感じるすれ違いも、視点を変えれば、大切な「異」への入り口になることがあります。日常の小さな違いに目を向けながら、自分の見方や感じ方を見直すワークと一緒に体験してみませんか。目からウロコがぼろぼろはがれる時間になるといいなと、楽しみにしています。

日時：2025年5月17日(土)9:00-12:00 開場8:45 懇親会：12:15-14:00(希望者のみ参加)

会場：Glocal Point Aoyama <https://glocalcafe.jp/aoyama/#access>

対象者：日本語教師・日本語ボランティア教師・日本語教育関係者、他(定員：先着32名)

申込フォーム：右のQRコード、下のリンクよりフォームにアクセスできます。

<https://forms.gle/vwYZtEHjwZQAXfESA>

上記お申し込みフォーム受信後、自動返信メールにて振込先をお知らせします。

参加費のお振込後、正式にお申し込み受付完了となります。



※上記フォームご送信後に振込先の連絡が届かなかった場合、以下の事務局メールアドレスまで、直接ご連絡いただきますようお願いいたします。

参加費：4,000円（キャンセルの場合ご返金はできません） 懇親会費：1000円（当日現金払い）

主催：サタラボ【代表】小山暁子

お問い合わせ：satalabo1@gmail.com 【事務局】伊藤・森谷・渡辺